

評価会議結果

	評価項目	評価の視点	確認欄
個別評価	事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が担う必要はあるか ・ 市が実施する必要はあるか 	✓
	事業の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の規模は妥当か ・ 整備場所は妥当か 	✓
	事業の優先性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の着手時期は適切か 	✓
	事業の有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決又は政策目標達成のために有効な手段か ・ 経済的波及効果は認められるか 	✓
	事業の経済性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 費用（維持管理費及び運営費を含む）は適切か 	✓
	地域への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺環境及び景観との調和に配慮した検討がされているか ・ 市民（特に地元住民）への説明や情報共有の手法は適切か 	✓
	評価 総合	<div style="border: 2px solid black; display: inline-block; padding: 2px 10px;">実施</div> ・ 実施しない	
評価のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ● 「事業の必要性」については、長く教育関係者から要望が出ているとともに、アンケート調査の結果を見ても市民ニーズの高さは確認でき、採算性の視点から公共事業として市が整備する必要性についても同様であり、「自己評価」は妥当である。また、公式記録をとれる施設がない点や市外の施設を借用した際の移動負担、緊急時対応の困難さという課題の解決にも資するものである。 ● 「事業の妥当性」については、整備地の選定や確保形態、施設の規模について「自己評価」は妥当である。事業を進めるにあたっては、関係法令を遵守するとともに、豊かな自然環境を含めた周辺環境への影響に十分に配慮し、周辺市街地の活性化への貢献するものとする。 		

- 「事業の優先性」については、「事業の必要性」と同様に、市民からの要望の歴史も長く、第2期戦略プランにおいても主要プロジェクトとして位置付けており、優先性の高さについて「自己評価」は妥当である。ただし、市では、令和7年度まで教育関係を中心に、より緊急性の高い大規模事業が多く予定されていることから、全庁的な予算の確保に向けた取組を進める必要がある。
- 「事業の有効性」については、市内で記録のとれる施設を小・中学生に提供できるとともに、第2期戦略プランやスポーツ推進計画に位置づけがあるとおり、市の政策目標の達成にも貢献することから「自己評価」は妥当である。また、想定する経済波及効果に加え、防災機能を備えた地域活性化拠点とすることで、当該地域の魅力の向上・活性化への十分な貢献も期待できる。ただし、自己評価（事業の妥当性）に需要予測が示されているが、施設の管理運営方針を定めるにあたっては、より施設の稼働率を上げる取組を進めるとともに、有効活用を図るものとする。
- 「事業の経済性・効率性」については、採算性の確保が困難であることとコスト縮減に向けた取組について「自己評価」は、妥当である。ただし、現在の基本構想では不明確であるセミナーハウスの整備等の整備費用や、運用開始後のランニングコストなど、今後検討される事項についても、より一層のコスト縮減に努めることとする。
- 「地域への対応」については、周辺環境及び景観への配慮、環境影響低減の工夫、地域との合意形成はいずれも十分に組み込まれており、「自己評価」は妥当である。ただし、集客施設であることから、騒音や渋滞、駐車場、道路整備に至るまで、幅広い対策が必要となり、今後も十分に配慮しながら進めることとする。

上記のことから、各評価項目について、適切な検証がされ評価の視点を満たしているため、総合評価は、「実施」とする。